

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、学校が家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	91	人
② 数学	91	人
③ 英語	91	人

5 留意事項

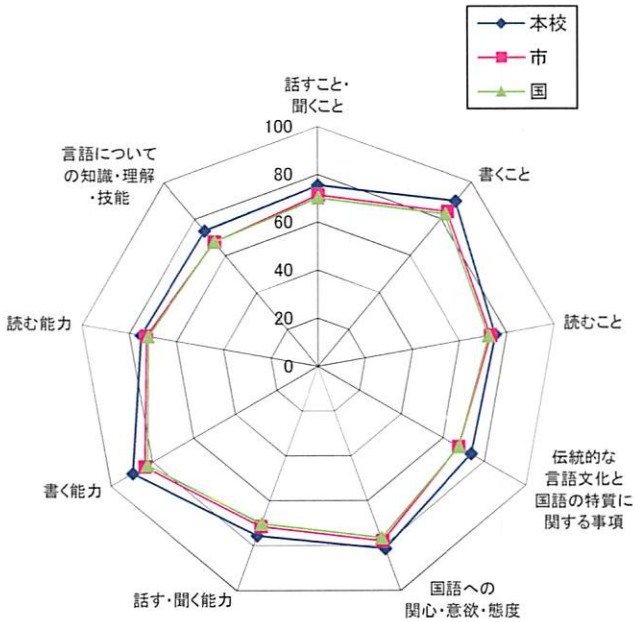
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.5	71.4	70.2
	書くこと	89.6	83.9	82.6
	読むこと	75.1	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	81.3	77.9	76.5
	話す・聞く能力	75.5	71.4	70.2
	書く能力	89.6	83.9	82.6
	読む能力	75.1	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	73.6	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

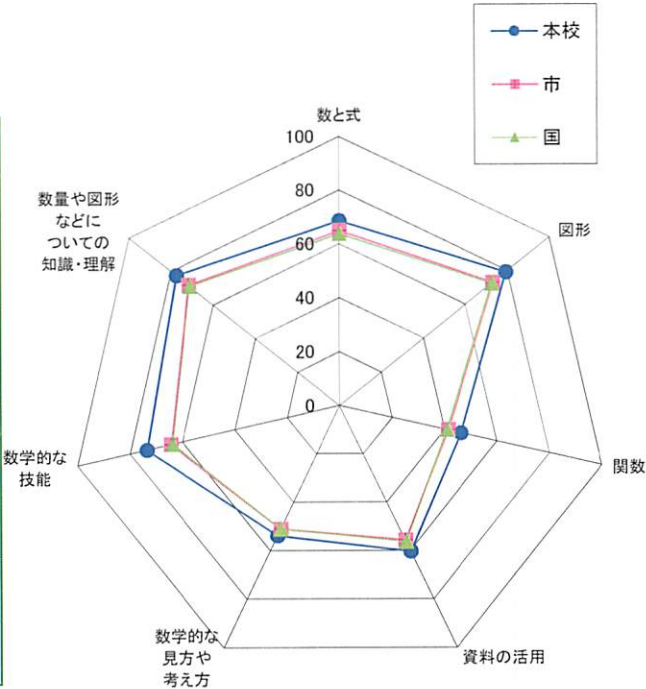
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市よりも4.1、国より5.3ポイント上回っている。 ○「話し合いの話題や方向を捉える」「相手に分かりやすく伝える表現について理解する」選択問題の正答率は市・国よりも上回っていて無解答者もいない。 ●「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」記述問題の正答率は県・国より上回っているが、記述の条件を満たしていない者・無解答者は市・国より多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業において、ペアやグループでの話し合いや、意見発表など様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れる。 ・相手の話の要点を的確に捉えられるように、聞き取る際のメモの取り方の指導や、条件に応じて自分の意見を書く指導の工夫をする。
書くこと	市よりも5.7、国より7.0ポイント上回っている。 ○「論の展開にふさわしい語句を検討する」選択問題の正答率は、市・国より上回っていて無解答者も少ない。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」記述問題の正答率は、市・国より上回っているが、無解答者が5.5%となっている。	・記述式の問題になると無解答率が高くなる。書くことに抵抗のある生徒を減らすため、書く機会を意図的に増やし、自分の考えを自分の言葉で書くことができる力を育てる。 ・読むことの授業とも関連させ、文章の構成を意識したり、効果的な表現の仕方に気づかせたりする。
読むこと	市よりも2.1、国より2.9ポイント上回っている。 ○「根拠を明確にして自分の考えを持つ」「情報を整理し内容を捉える」選択問題の正答率は市・国より上回っていて無解答者もいない。 ●「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ」記述問題の正答率は市・国より上回っているが、記述の条件を満たしていないものが市・国よりも多い。	・文章を読み取る際の基礎となる語彙力を高めるため、辞書の活用を習慣化させる。 ・読み取る際の裏付けとなる表現や人物の言動などに着目させて、理解へとつながる授業を行う。 ・読解力につながる読書指導を継続するとともに、良書を選ぶ力をつけることも目指す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市よりも6.1、国より5.9ポイント上回っている。 ○「語の一部を省いた表現の特質の理解」選択問題の正答率は市より10.7ポイント、国より9.2ポイント上回っている。 ●「封筒の書き方を理解して書く」短文問題の正答率は市・国よりも上回っているが、完全正答率が市・国よりも多い。	・漢字は小テストを定期的実施するなど、生徒自身が継続して学習に取り組む姿勢を育成する。 ・語句の意味は辞書的な意味だけではなく、文脈の中で捉えられるようにさせる。また自らの文章で使うことができるよう、短文作りなどを取り入れる。 ・封筒の書き方は授業でも取り組み、一般常識として身に付けさせる。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.6	64.9	63.8
	図形	79.1	72.8	72.4
	関数	46.2	41.1	40.8
	資料の活用	60.4	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	53.8	51.1	51.0
	数学的な技能	73.6	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	77.6	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

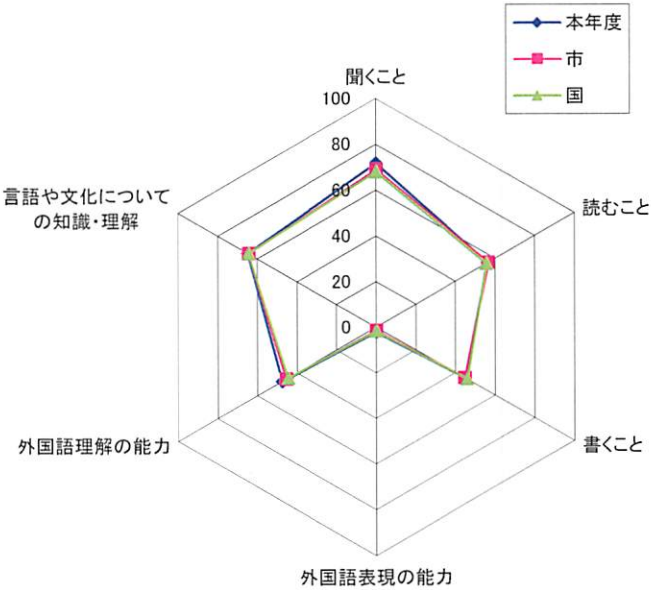
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市よりも3.7、国よりも4.8ポイント上回っている。 ○連立方程式を解く問題で、県や国よりも10ポイント以上正答率が上回っていて、計算に関する技能が身についている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・整数の性質を文字を使って説明する問題に対して、穴埋め形式を取り入れるなどの支援を工夫して、記述式の問題に対する対策に力を入れる。
図形	市よりも6.3、国よりも6.7ポイント上回っている。 ○図形の移動に関する問題では、90%の正答率で、理解が深まっている。また、合同条件を選択する問題でも、県や国よりも正答率が10ポイント近く上回っていて、高い理解度を示している。	・図形の証明に関する記述力を高めるために、穴埋め形式を取り入れるなど支援の工夫をする。 ・基本を定着させるように丁寧に支援をし、その後たくさんのパターンの問題を解かせるようにする。
関数	市よりも5.1、国よりも5.4ポイント上回っている。 ○反比例の関係を式で表す問題、グラフを用いて、問題の解決方法を数学的に説明する問題では、県や国の正答率よりも10ポイント以上上回っている。 ●グラフから、一般的な事象を読み取る問題では、県や国の正答率よりも約4ポイント下回っている。	・一般的な事象を表したグラフを用いた読み取りの問題に数多く取り組み、どこに注目すべきかのポイントをつかませる。 ・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数のそれぞれの関数の特徴をとらえさせ、表、式、グラフのつながりを確実にとらえられるよう、工夫して指導する。
資料の活用	市よりも4.7、国よりも4.1ポイント上回っている。 ○簡単な場面の確立を求める問題、資料を整理した表から最頻値を読み取る問題とも、県や国の正答率よりも4ポイント以上上回っている。	・各代表値の特徴を整理して、しっかりと身につけさせる。 ・資料の傾向をとらえ、代表値を用いるなど数学的な表現を用いて説明する力を身につけられるよう、資料を読み取る練習を繰り返す。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	71.7	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	56.2	56.5	55.6
	書くこと	44.5	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	2.2	1.5	1.8
	外国語理解の能力	47.6	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	64.8	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市よりも2.8、国より3.8ポイント上回っている。 ○教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることに ついて、国を8.1ポイント上回っている。まとも のある英語を聞き、話の概要・必要な情報を理解する 力については、 ●一方で、日常的な話題については、正確に情報を 聞き取る力が弱い傾向にある。	・授業の中で、まとまりのある英文を聞かせて、その内容 から適切な答えを選択する練習を続けたい。 ・日常的な話題について、正確な情報を聞き取るために、 会話の流れをつかむことが大切である。話題になっ てい ることは何か、英文中のつなぎ言葉(接続詞)、相手の反 応、強く聞こえる部分など、いくつかの要点を掴み、しっ かりと聴きこむ訓練を行う。
話すこと		
読むこと	○国よりは0.6ポイント上回っているが、市より0.3ポ イント下回っている。の平均値より1.7%上まわっ ている。細かくみると、日常的な話題について、簡単 な 語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取 る力については、 ●ただし、グラフを使った読み取り問題になると、国 よりも2.5ポイント以上、下回っている。	・資料を使った問題を読めるようにするには、様々な英文 を読むことが対策になる。その時に必要なのは、初めて の問題であることや、書き手が伝えようとしている内容を 意識すること。話の内容や書き手の意見などをとらえるよ うに、丁寧に指導したい。 ・高校英語への接続を視野に入れ、英文の大きさや書か れた内容の大切な箇所を把握する練習をする。また、時 間を決めて読み込むことで、集中して読む速度を上げる 練習を行う。
書くこと	●市より0.1ポイント、全国より1.3ポイント下回っ ている。●具体的には、長文問題の内容や書き手の意 見などをとらえることに課題がある。	・教科書の単元ごとに書く活動を行いたい。授業内に配布 するワークシートには、自分の意見や考えを書かせる欄を 設けて、自分のことを表現する取り組みを行っている。 ・すでに習った表現や文法知識を活用できるように、今ま でのテストで書けなかった英文や単語のやり直しを促す。 ・対話文の空所補充問題で、会話の流れを考えさせたり気 づかせることを通して、自然な英語表現力を養う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の回答が県を4.1ポイント全国を8.4ポイント上回っており自分に対しての肯定感が強い。また「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答が91.3%であり、県を5ポイント全国を10ポイント近く上回っている。「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の回答も93.4%あり、県を5.2全国を9ポイント近く上回っており、人間関係の構築がうまくいっていると考えられる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答は当てはまる、どちらかといえば当てはまるを合わせると100%であり、日頃のいじめに対する指導や生徒会のいじめ撲滅活動の取り組みの成果だと考えられる。

●「学校の授業以外に普段1日あたりどれくらいの時間勉強しますか」の回答で2時間以上勉強するが県、全国より8～10ポイント低い。昨年度も同様の結果がでており、宿題など決められたことには取り組むことができるが、それ以外の学習は進んで行のが苦手である傾向が出てきていると考えられる。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習ノートの作成 (家庭学習の充実と継続を 目指して)	毎日、必ず大学ノート1ページ分以上の 学習を家でやってきて、朝の会後に提出 する。	学校の授業時間以外に普段1日あたりどのくらいの 時間、勉強しますかでの回答で30分以下、まったく しないを合わせると6.6%であり、県全国より3%～ 6%下回っている。これは家庭学習が習慣化してき ていると考えられる。反面2時間以上学習する割合 が8～10ポイント低く今後の課題である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「2年生のときに受けた授業では、課題の 解決に向けて、自分で考え、自分から取 り組んでいたと思いますか。」「2年生の時 に受けた授業で自分の考えをうまく伝わ るよう工夫して発表していましたか。」の 肯定的な回答が県や全国と比べて前者 が3～8ポイント、後者が2～7ポイント低 い。積極的に取り組むことや、発信するこ とに対する意識が低い。	今後、学習指導要領がか わり、「主体的・対話的で深 い学び」の実践に向けて、 まずは教師側が積極的に 研修会へ参加したり、情報 を交換する機会を設けたり する。	市や県主催の研修会への参加 互いに授業を参観したり、意見交換をしていく(ミニ 研究授業の実践など)